

移動環境を考慮した高齢者の主観的幸福感に関する研究 -余暇活動の重要性に着目して-

社会システム計画学研究室2015年度修士研究 厚海尚哉

研究の背景 近年の高齢化と平均寿命の延伸 → **高齢期の長期化**
ゆとりある余生過ごし方が高齢期の幸福のために重要
移動環境・各活動・幸福感の関係性



- 取り組みたい活動を実施するため
 - 閉じこもり予防・外出促進のため
- 移動環境は余暇活動においても重要となるのでは？
- 移動がしやすいことは幸福感へどう結びついているのか？

研究の目的

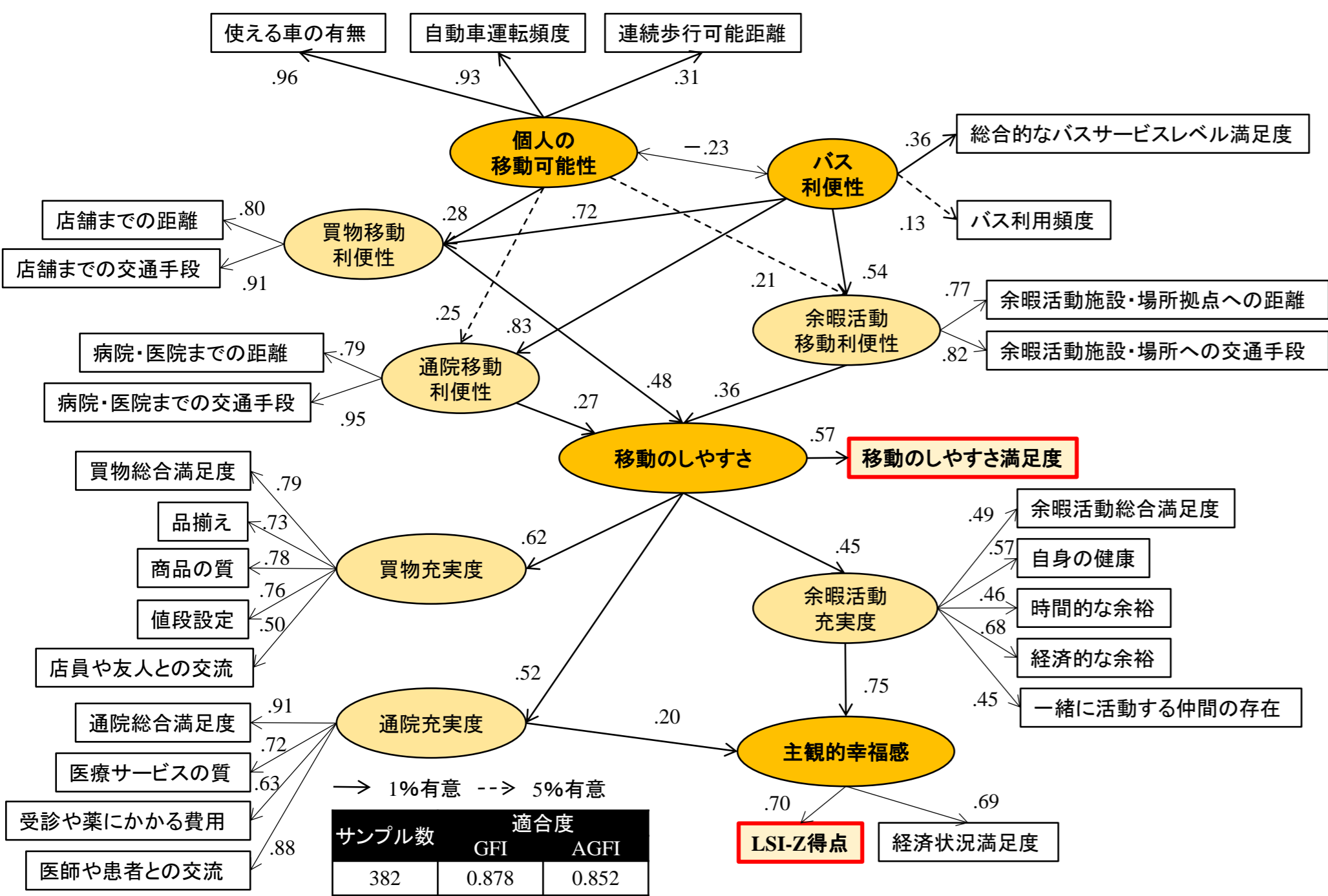
移動環境、余暇活動、必須活動の充実と
高齢者の幸福感の関わり方を総合的に明らかにする

余暇活動の重要性に着目し

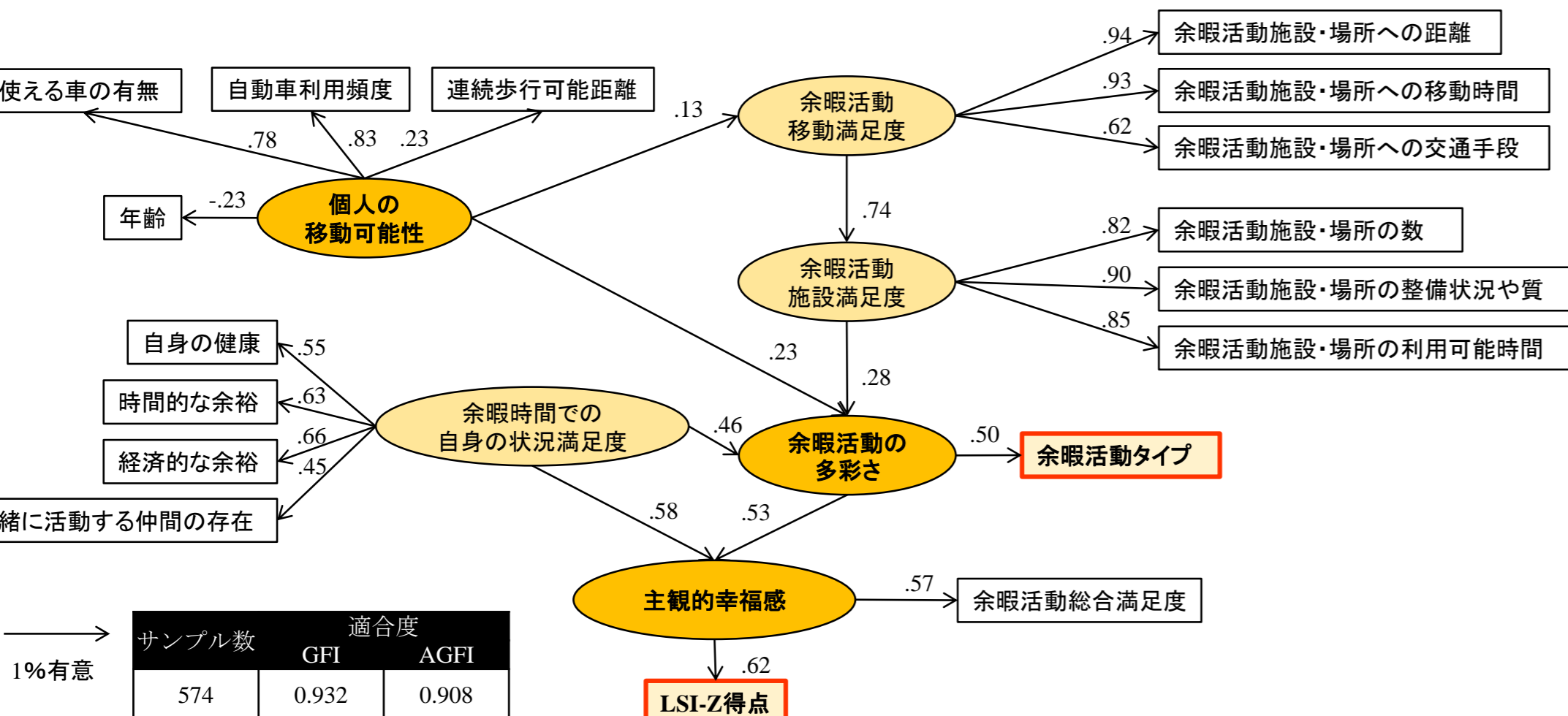
余暇活動の取り組みの関連要素を把握する
余暇活動への取り組みと幸福感の関係を明らかにする

分析結果

移動のしやすさと主観的幸福感の関係



余暇活動の多彩さと主観的幸福感の関係



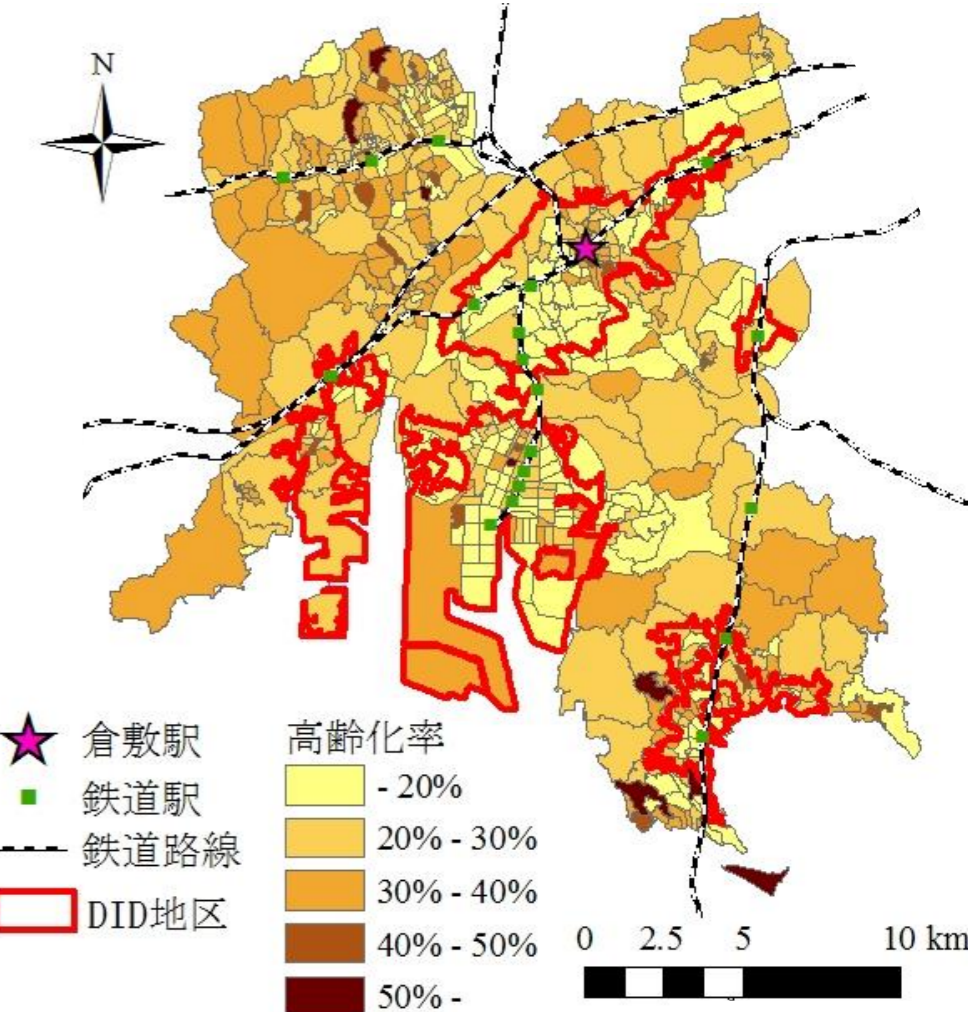
余暇活動タイプ別 余暇活動種目 平均実施数	余暇活動タイプ	外出交流系活動	個人外出系活動	外出・在宅系活動	個人在宅系活動
多彩型 (N=261)		4.912	1.157	1.820	3.096
平均型 (N=516)		2.165	0.922	0.857	2.109
消極型 (N=239)		0.615	0.418	0.544	0.946

分析対象地域と使用データ

岡山県倉敷市

多様な地域性を有し、高齢者の生活支援対策に力を注いでいる

調査名		倉敷市における余暇活動と公共交通を 考えるためのアンケート調査	
調査対象地域	倉敷市全域		
配布・回収方法	55歳～85歳を対象に無作為抽出、郵送配布・郵送回収		
調査時期	2013年12月		
配布票数	3950部	※本研究では65歳～85歳 (有効票数1016票)を 分析対象としている	
回収票	1706部		
回収率	43.2%		
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人属性 (年齢、性別、世帯構成など) ● 余暇活動状況 (頻度、交通手段、取り組んでいる種目、取り組みたい種目、満足度など) ● 日用品の買物・通院状況 (頻度、交通手段、主な行き先、満足度など) ● 普段の移動状況 (免許・使える車の有無、送迎者の存在、交通手段別利用頻度、バスサービス評価など) ● 主観的幸福感評価 		

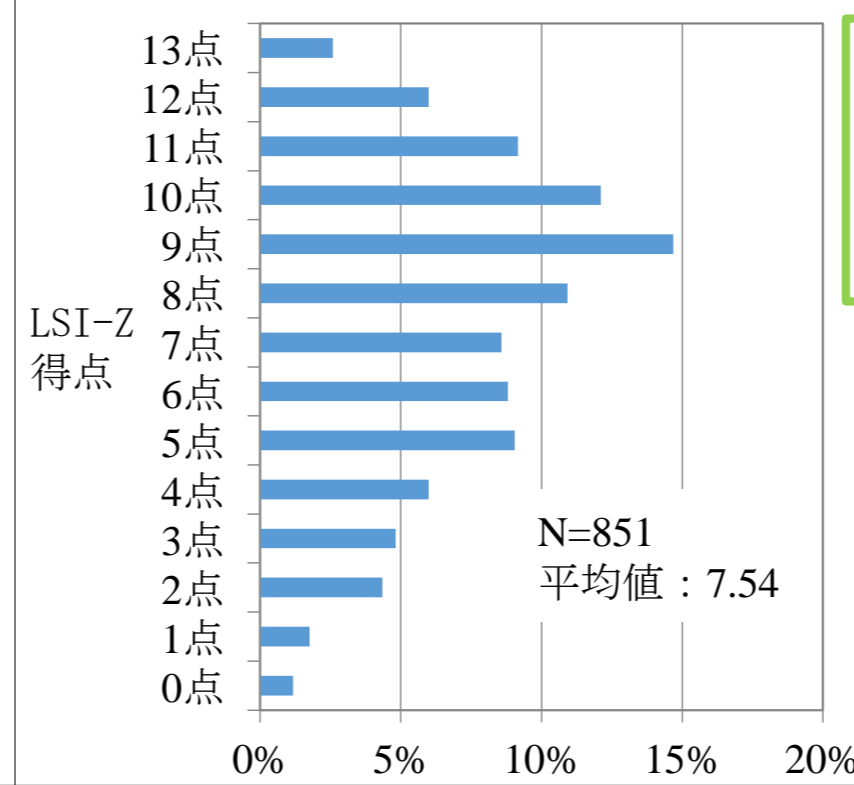


主観的幸福感尺度の概要

LSI-Z (Life Satisfaction Index Z)

- 気分状態、生活への興味・関心、目標達成についての13項目の設問からなる尺度
- 「はい」か「いいえ」で回答し肯定側の回答を1点とする(得点範囲は0～13点)
- 高得点であれば主観的幸福感が高い
- 国内・国外も含めた先行研究において主に心理学などの分野で活用が見られる

LSI-Z集計結果

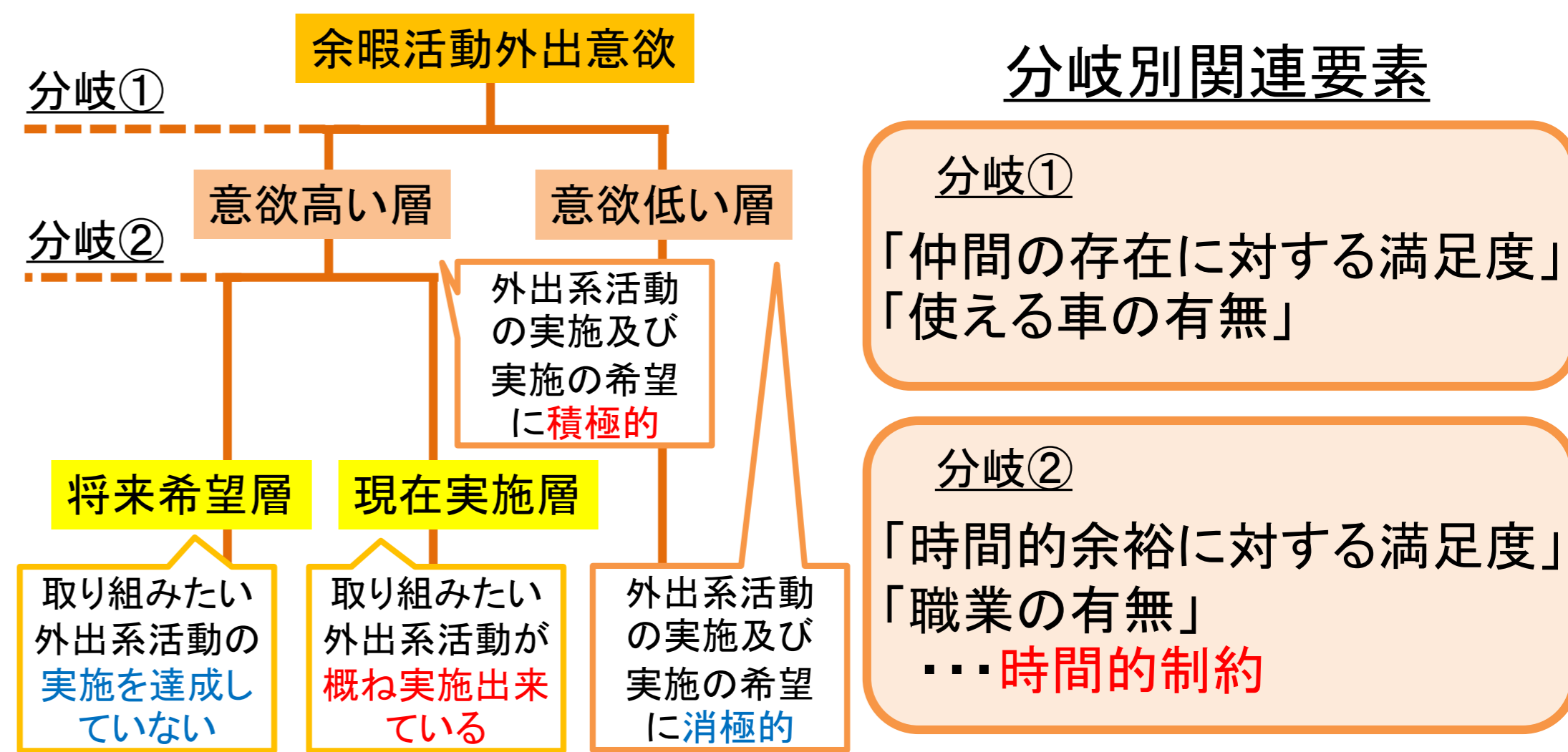


設問項目
・年をとることは若い時に考えていたよりも良いことだと思うか
・あなたの人生は他の人よりも恵まれていたと思うか
・1カ月先、1年先の計画が出来ているか など

高齢者の主観的幸福感を表す指標として用い分析を行う

余暇活動の外出意欲の関連要因把握

実施している外出系活動数と取り組みたい外出系活動数をもとに回答者を分類した



分岐別LSI-Z得点比較

分岐	層	LSI-Z 平均得点	判定
分岐①	意欲高い層 (N=423)	8.031	**
	意欲低い層 (N=347)	6.867	**
分岐②	現在実施層 (N=272)	8.235	*
	将来希望層 (N=151)	7.662	*

判定: 母平均の差の検定 **1%有意 *5%有意

結論

車を使えることやバス利便性の高さは移動のしやすさ満足度を高め通院や余暇活動の充実を介して主観的幸福感と間接的に結びつく

車を使えることや長く歩けることで余暇活動に多彩に取り組むことが出来、主観的幸福感と結びつく

余暇に外出意欲を持つために車を持っていることが重要
希望する外出系活動の実施できない理由は時間的制約